



## 保育園における伝染病に対するきまり

佐久穂町保育園

保育園は集団生活の場でありますので、感染症にかかった場合は感染を防ぐため、登園停止期間を定めますのでご協力をお願いします。登園停止期間は医師が定めた期間です。

1. お子さんにいつもと違う様子がみられた場合は、医師の診断を受けてください。
2. 法定伝染病及び下記感染症にかかった場合は、決まりに従い登園停止期間を必ず守ってください。  
感染性のある病気が治り登園する場合は、医師の診断を受け、医師の「意見書」(園に用紙があります)を提出してください。

病名	初期の症状	感染しやすい時期	登園のめやす
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発熱、食欲不振、時には頭痛や嘔吐がみられる。耳下腺が片側から、また両側同時に腫れる。	発症3日前から耳下腺腫脹後4日。	頬の腫れや痛みが始まった後5日を経過し、かつ全身状態が良好となり、病院の許可を得てから。
水痘 (みずぼうそう)	体と首のあたりから顔面に発疹ができる。その中央部がやや高まって円形又は卵円形の水疱ができる。	発しん出現1～2日前から、かさぶた形成まで。	すべての発疹がかさぶたになり、病院の許可を得てから。
咽頭結膜熱 (プール熱)	高熱(39℃～40℃)、咽頭痛、頭痛、食欲不振の症状があり、3～7日間続く。目やにが増える。	発熱、充血等の表情が出現した数日間。	発熱、咽頭炎、結膜炎などの症状が消失した後2日経過し、病院の許可を得てから。
流行性角結膜炎	急性結膜炎の症状で目が腫れ、異物感があるため目やにが多く出る。感染力が強い。	充血、目やに等の症状が出現した数日間。	結膜炎の症状が消失していること。病院の許可を得てから。
麻疹 (はしか)	くしゃみ、鼻水、発熱、目やにが多くなる。口内の頬粘膜にコプリック斑(白い斑点)がみられる。	発症1日前から、発しん出現後の4日後まで。	解熱した後3日を経過し、病院の許可を得てから。
風疹 (三日はしか)	発熱と同時に発疹、リンパ節の腫れや痛みもある。	発しん出現7日前から7日後くらい。	発疹が消失し、病院の許可を得てから。
百日咳	しつこい咳が特徴で発熱することはあまりない。咳のために眠れなかったり、顔が腫れたりすることもある。	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること、または適正な抗菌性物室製剤による5日間の治療が終了していること 病院の許可を得てから

\*インフルエンザの治癒証明書は、保育園に書類があります。保護者の方が記入のうえ、園へ提出してください。

病名	初期の症状	感染しやすい時期	登園停止期間
流行性感冒 (インフルエンザ)	寒気、頭痛、高熱(39℃～40℃)、咳、鼻汁で始まる場合もある。咽頭痛、鼻汁、鼻づまり、嘔吐、下痢、腹痛が多くみられる。	症状が有る期間 (発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い。)	解熱日(平熱に下がった日)の後3日を経過し、発症日の翌日から5日経過するまで。

\*その他、保育園でよく発生する病気として下記の疾病があります。

集団の場合である保育園では感染の拡大が予想されます。症状がおさまり、登園する場合は、医師の診断を受け、「登園届」(園に用紙があります。)に保護者の方が記入して提出してください。

病名	初期の症状	感染しやすい時期	登園のめやす
ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス、ロタウイルスなど)	嘔吐と下痢が主症状 乳幼児では、特に下痢便が白くなることもある。 脱水症状になることもある。	症状がある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが、ウイルスを排出しているので注意が必要。)	嘔吐、下痢がおさまり水分や食事がしっかりとれること。
ヘルパンギーナ	突然の発熱(39℃以上)、のどの痛みがある。のどには赤い発疹が見られ、次に水疱になる。	急性期の数日間(便の中に1か月程度ウイルスを排出しているので注意が必要。)	発熱や口腔内の水疱潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。
溶連菌感染症	突然の高熱があり、のどの炎症を起こし、手足の指先や全身に粟粒大の発疹や舌に赤いぶつぶつが出たりする。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間。	合併症を引き起こすことがあるので注意が必要 抗菌薬内服後24～48時間が経過していること。 のどの痛みがとれ、全身状態が安定していること。
りんご病 (伝染性紅斑)	微熱、咳、鼻づまりなどの症状がみられ、頬に特有の紅斑症状がみられる。	発疹出現前の1週間。	頬が赤いのは治ったサインなので登園できるが、全身状態が良いこと。
マイコプラズマ肺炎	しつこい咳と頑固な発熱がみられる。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間。	解熱し、咳のピークを過ぎていること。
手足口病	手、足、口に水疱状の発疹ができる。	手足や口腔内に水疱、潰瘍が発生した数日間。	発熱や口腔内の水疱の影響がなく、普段の食事がとれること。
とびひ(伝染性膿痂疹)	細菌が皮膚に感染することで発症する。	水疱を形成している間。	治療して、病変部をガーゼなどできちんと覆い、露出しないようにする。